

(一社)茨城県環境保全協会 協会だより

平成30年度
第5号（通巻第50号）
平成30年8月1日発行
一般社団法人茨城県環境保全協会
発行担当 広報委員会
水戸市平須町1825-192 平須ビル202
TEL 029-303-6007
FAX 029-303-6008
Mail info@kankyo-ibaraki.com

西日本豪雨災害に義援金を拠出



6月28日から7月8日にかけて、前線や台風第7号の影響により西日本を中心に広い範囲で記録的な大雨になりました。

各種メディア等での報道でご存じの通り岡山県倉敷市や広島県等の中国地方や、四国地方においては甚大な被害が発生し、200人以上の尊い人命が失われ、土砂等により家屋が流され、いまだ災害以前の生活には到底戻れない状態が続いております。

(一社)日本環境保全協会の会員関係地域(京都府・奈良県・島根県・和歌山県・山口県・徳島県・香川県・愛媛県・高知県・福岡県・長崎県・宮崎県)においても被害が発生し、その中でもとりわけ、愛媛県での被害が甚大であり、四国ブロック協議会内に災害対策本部が設置され、愛媛県環境保全協会が

被災地におけるし尿・ごみ処理支援をおこなっております。

また、九州沖縄ブロック協議会内にも、九州ブロック災害対策本部が設置されました。

それにとまない、(一社)日本環境保全協会より被災地団体会員への支援及び災害救援に対し、義援金への協力依頼が有り、7月の役員会で当協会の対応を協議し、今回の被災地が遠方であり復旧作業等の実務的なボランティアは現実的ではないことから、予算計画の緊急災害活動費から30万円を義援金として拠出することを決定したことをご報告させていただきますので、会員の皆さまにおかれましては、ご理解いただきますようお願い申し上げます。

尚、義援金は(一社)日本環境保全協会が特別会

計として管理し、有効かつ迅速に被災地へ提供致します。

当協会としても、犠牲になり命を落とされた皆様に対しては心より哀悼の意を表するとともに、被害にあわれた各地の皆さまの一日も早い復興、復旧をお祈り申し上げます。

また、当県においても数年前には常総市を中心とした地域において鬼怒川等の氾濫により多くの被害が発生しております。

どの地域の災害の際でも数十年この地に住んでいるが、こんなことは初めてだと、ご年配の被害者の方がおっしゃっております。

今まで大丈夫だったからこれからも大丈夫、ではなく、いつこのような災害が起こるかもしれないという心構えが必要なのではないでしょうか。

7月度定例役員会の開催

7月18日(水) 午前10

時より水戸市内平須町の協会事務所において7月度の定例役員会を開催いたしましたので、当日の議事内容等についてご報告いたします。

出席理事

秋山理事長・長塚・池田・岡島副理事長 小林・石井・繁藤・小沼・星山理事(理事15名中9名出席) 露崎監事

協議事項

① 浄化槽清掃実務者講習会の日程及び内容について

10月6日(土)茨城県開発公社ビルにて浄化槽清掃実務者講習会を開くことを決定しました。講習会の内容については、アムズ様の浄化槽の清掃や構造等の講習することです。講習会の内容が確定しましたら、会員の皆様へFAXにて案内いたしますので、是非御出席ください。会員様の出席は無料です。

② 協会だよりについて

7月号の内容について広報委員会より提案があり承認されました。県内全ての市町村、県の関係機関に無料配布しています。もし、ご希望の関係者の方がありましたら当協会までご連絡下さい。

③ 8月の役員会の開催日について

通常、毎月第三水曜日に開催しております役員会ですが、お盆の時期と重なるため8月22日(水)に開催することにしました。

④ 西日本豪雨災害義援金について

記事にてご紹介しておりますので割愛いたします。

報告事項

① 関東地区協議会について

6月21日に群馬県伊香保温泉において開催されました、日本環境保全協会 関東地区協議会の総会について報告がありました。内容に関しましては、先月号の協会だよりをご

参照ください。

② 要望書について(日本環境保全協会)

今年も(一社)日本環境保全協会より、自民党の環境保全議員連盟(会長 山東昭子参議院議員)に対し各種要望書が提出されており、その内容について報告がありました。

【平成31年度予算に関する要望事項】

・一般廃棄物処理施設整備関係予算の確保について

・浄化槽関係予算の拡充について

【一般政策に対する要望事項】

・現行の廃棄物処理法に則って廃棄物の適正処理が行われるよう法制度の適切な運用について

・一般廃棄物の適正処理を確実なものとするため、処理委託・許可制度の適切な運用の指導徹底について

・合特法の推進について

・災害廃棄物処理体制の構築のため、市町村の一般廃棄物処理に関する計画策定を支援する等により市町村の計画策定を図りたい。

また災害廃棄物では、日常的に一般廃棄物処理事業に携わっている処理業者と当該市町村の連携が重要であると考えられることから、事業継続計画にあたっては、関係各主体の役割や実施体制等、処理業者の位置づけが明確にされるよう周知徹底されたい。

③ 建築物の解体時等における残置物の取り扱いについて

(一社)日本環境保全協会より標記案件について環境省から各都道府県宛に発信された通知文書が届いたため、役員会の席上においてその内容について報告されました。

詳しい内容については、協会事務局までお問い合わせください。

以上の内容にて役員会を行い、正午に終了いたしました。

いばらき自民党宛の県政要望書

当協会では、以前よりいばらき自民党へ対し県政要望書を提出しており、今年度も同様に提出いたしました。

要望内容につきましては、以前より要望事項として提出している①浄化槽の法律等に則った適正な維持管理及び②合特法の趣旨に沿った代替業務についてであり、8月下旬に予定されております懇談会において、発表を行ってまいります。

【浄化槽の適切な管理に対する要望事項】

現在茨城県内においては、浄化槽の設置基数は下水道等の普及により減少傾向にはあるものの、いまだ25万基ほど存在するといわれております。

浄化槽にはトイレ及び生活排水を浄化し、河川湖沼の水質を守り、清潔で安全な県民生活を送るために非常に大切な役割を与えられております。

そのためにも現在でも数多く残っているし尿のみを浄化し、生活排水が垂れ流しの状態の「単独処理浄化槽」から生活排水も同時に処理できる「合併処理浄化槽」への転換を図ることが重要です。

しかしながら合併浄化槽もその機能を発揮させるためには、日常の保守点検及び清掃、さらには水質検査が必要とされており、それらは浄化槽管理者(所有者・使用者)の義務として浄化槽法及び茨城県浄化槽指導要綱にも定められ、それらの法令等を遵守し、適正に管理を行っている浄化槽管理者がいる一方で、法律で定められている保守点検(4か月に1回以上※)、清掃(年に1回以上※)(※回数はいずれも小型合併浄化槽の場合)、法定検査(年1回)を行わず、当然負担しなければならない管理経費を負担せずに道路側溝等を伝って河川や湖沼に環境負荷の非常に高い排水を流し続けている浄化槽管理者がいることも事実であり、それらが霞ヶ浦や県内各水域の汚濁の原因となっていることは間違いないところであろうと考えます。

つきましては、県民に対し、浄化槽の適正管理の必要性を広く周知徹底するための広報活動を実施し、県内の公共水域の水質浄化を推し進めていた

きたく、よろしく願います。

現在、茨城県は民間の調査ではありませんが、魅力度ランキングで全国最下位という汚名に甘んじております。原因の一つとして観光資源の有効活用ができていないということがあげられると思えますが、県内各河川、湖沼が清廉な水資源を有するとなれば、観光客の増加にもつながるのではないのでしょうか。県を代表する観光地である偕楽園を訪れた観光客がその借景でもある桜川、千波湖まで足を延ばしたとき、アオコの中を泳ぐ白鳥を見てどう感じるでしょうか。リピーターとして再び訪れる方は少ないのではないのでしょうか。

また、秋には水戸駅南口を流れる桜川に鮭の遡上も見受けられます。これらも今後PRをし、県外から常磐線等での観光客の誘致につなげられると考えますが、現状の濁った桜川では魅力も半減以下だと思えます。

当協会は、会員の業務を通じて、より魅力的な茨城県作りに協力をしていく所存でありますので、今後ともご指導のほどをよろしくお願い申し上げます。(以上)

兵庫県モリタエコノス様新工場視察研修のお知らせ

当協会では青年部と次世代育成委員会の合同企画として、11月16・17日の日程でモリタエコノス様の兵庫県三田市の新工場視察研修を計画しております。

後日改めてご案内を差し上げますが、今回の視察研修においては、青年部員以外でも会員企業の次世代後継者の皆様数名ではございますが、参加が可能となっております。各会員企業におかれましても、これからの後継者



育成は重要な課題であるとともに、頭を悩ませていることではないでしょうか。協会としては次世代の一般廃棄物処理業の在り方を考え、青年部と次世代育成委員会と共同し各種研修等を開催してまいりますので、是非後継者の勉強の場として活用いただければと思います。

以前より青年部は、県内会員企業はもとより、県外の青年部とも交流を持ち、各種新しい情報等の収集にも努めております。今後は次世代育成委員会と合同で、業界の発展のために各種行事を企画してまいりますので、よろしく願います。

協会だよりもおかげさまでリニューアル後50号を迎えることができました。ひとえに会員皆様のご協力の賜物と感謝申し上げます。(広報委員会)